

染め物を通して地域貢献する楽しみ 補聴器でコミュニケーション改善



まさ おか とし お **正岡 俊雄**様 (73歳)

- 愛媛県喜多郡内子町在住
- 補聴器装用歴10年



それに、えひめ補聴器センターさんは、相談から購入後のアフターフォローもしっかりしていて安心して。この補聴器は2台目ですが汗や湿気に強いコーティングをしているので、汗かきの私でも故障もなく快適に使わせてもらっています。

補聴器がつなぐコミュニケーション

私は内子町の「手仕事の会」のメンバーです。家内と手すき和紙の柿渋染めを使って切り絵をし、行燈などを作っています。

彩行燈は内子と姉妹都市でもあるドイツのローデンプルク市の市庁舎に展示してもらっています。

また東京の料亭や道後のホテルにも納めさせていたでいて、ありがたいことです。

「内子の和」というお店でワークショップを開催したり、学校にお伺いすることもありますが、補聴器なしでは生徒さんの質問に答えることも教えることもできません。

先方とも打ち合わせをしますが、補聴器のおかげで聞き返しも少なくなり、やりとりも助かっています。

えひめ補聴器センターとの出会い

10年ほど前に家内との会話が分かりづらくなり、会合などでも聞き取りづらく、何度も聞き返したり曖昧な返事をするのは失礼だし何とかしなければと思っていました。そんな時、小田自治センターでえひめ補聴器センターさんが相談会をされていて、親身に相談に乗っていただいたのがきっかけで補聴器を購入しました。

聞こえなかった音が聞こえ始めた

つけてみると今まで聞こえなかった自然の音、虫の声、鳥の声、風の音がよく聞こえました。特に春になると鶯の音が聞こえていたのに、最近鳴かないな、と思っていたら、私自身が聞こえていないだけでした(笑)。あとは、粉雪がさらさらと降り積もる音まで聞こえて、懐かしい音に出会ったようで感動しました。もちろん家内との会話もスムーズになり、会合のときや車の中での会話もずいぶん楽になりました。



柿渋染めの切り絵

地域活性化の想い

年を取って何もすることがないのも寂しいし、いろいろさせてもらうので楽しいですね。手仕事なので大量生産ができない、ひとつひとつ手作りで同じ配合にしても天気などにより色合いが変わる。そこも魅力ですね。後継者が育たないことが悩みの種ですが、私もまだまだ、気力は充実していますので、地域活性化のために仕事を続けていこうと思っています。そのためにも耳にも補聴器にもまだまだ頑張ってもらわないと(笑)家内と二人三脚で取組んでいきます。



正岡様作彩行燈と蜜ろう



奥様と

担当者より

正岡様は補聴器を使用されて10年になりますが、お仕事柄、人と接する機会も多く、補聴器がお役に立っていることを嬉しく思います。地域のボランティアもされており、補聴器を使用することで社会とのかかわりも増え充実した生活が送れるのではないかと正岡様を見て感じました。



大洲店 酒井 義久